

特集

男女共同参画推進月間2015

～ みんなイキイキ 男女がともに輝く“おかやま”～

11月は、岡山県男女共同参画推進月間です。月間中は、講演会、各種登録団体の自主企画事業や登録団体交流会が行われました。登録団体の自主企画事業では、ワールド・カフェ、意見交換会、バザーなど多彩な催しが繰り広げられました。

期間中は登録団体の活動を紹介するパネルなども展示され、多くの参加者で賑わった一ヶ月間でした。

基調講演 2015年11月28日(土)

『地域で支えるおひとりさま時代』

うえの ちづこ
講師：上野 千鶴子さん (社会学者・東京大学名誉教授)

未婚・既婚、子どもがいる、いないに関わらず、誰もが「おひとりさま」になる可能性がある時代。超高齢化社会をどのように生きていけばよいのか。そして、安心して自宅で最期を迎えるために今からできることはどんなことか。事例を交えながら楽しくお話いただきました。



「おひとりさま」として生きるには

「おひとりさま」の上野です。『おひとりさまの老後』を書いたおかげで、読者層が増えました。以前は「齋しの上野」と言われたものですが(笑)、最近は読んで「ほっとした」「癒された」と言われます。家族に頼ることのできないかわいそうな女のために書いた本が、みなさんの役に立っているんですね。結婚していようがいまいが最後は誰でもひとり。しかし、死ぬのはひとりでできても、自分の遺体の始末など、誰かに助けていただかなくてはなりません。最近、同世代の訃報を聞くようになりました。先日、民生委員から連絡があり「何かな?」と思ったら、独居の高齢者ということで見守りの対象になっていました(笑)。

安心して弱者でいられる社会～超高齢化社会～

団塊の世代が後期高齢者となる2025年には、要介護認定率や認知症患者数は跳ね上がるでしょう。地方では高齢者の絶対数は減り、家は余っているのに、なお高齢者施設を作ろうとしています。施設は家族のためのサービスというのが私の確信です。

「医療・介護一括法」が今年の4月に施行されました。病床数が削減されれば、「ほぼ在宅、ときどき病院」となり、受け皿がなければ、看取り難民は急増するでしょう。ピーク時には47万人にのぼると言われます。

超高齢化とは「**齢**」と「**弱い**」を重ねること。下り坂がいつまでも終わらないゆっくりと下りて行く社会です。「予期できる死」とも言えます。「誰もが安心して弱者になれる社会を!」これが一番大事なことです。支え合って一緒に下りて行きましょう。

独居高齢者の在宅を支えるネットワーク

かつて「介護」は家族の役割でした。樋口恵子さんによると、介護力としての嫁は今や絶滅危惧種。男性介護者も増加し、女性だけの問題ではなくなっています。

自分の家は心からくつろげる場所であり、介護職場になってはいけません。「24時間フルタイム家族」ではなく、「パートタイム家族」がいい。気持ちにゆとりを生むことがやさしさにつながります。

一人でいると、「お寂しいでしょう」と言われることが多いですが、大きなお世話。誰もいない真っ暗な家に帰るのはかえって清々しいものです!(笑)。ただ、在宅で一人で死んでも「孤独死」とは言われたくありません。家族に代わるネットワークがあればいいのです。

金持ちよりも「人持ち」—「女縁」という「選択縁」

幸も不幸も人間関係から。「人持ち」とは「**せんたくえん**」(上野の造語)から生まれます。血縁、地縁は選べない縁、社縁は縛られる縁ですが、「**せんたくえん**」は自由に縁を結び、ほどこくことができます。

親族、縁者も及ばぬ助け合いをやっているのが、「**せんたくえん**」である「女縁」。上手く付き合うための秘訣は、お金の貸し借りをしない、夫の職業や子どものことを言わない、聞かないなどです。様々な女縁を結んでおくといいですね。

居場所づくりと生きがい

全国各地に**せんたくえん**で作られた「地域の茶の間」ができています。志と体力さえあれば定年なしで働け、資格や理由も問われない。一緒に食べればその時家族という「共食共同体」には、引きこもりの若者から行き場のないお年寄りまでたくさんの方が集います。

種をまいて水をやるのは自治体の役割。土地と建物を借り上げて民間に運営を委託すればよいのです。取り組み次第で地域力の差がつくでしょう。

報酬は、活動のおもしろさと、関係の豊かさ。明日の利益より今日の充実です。仲間がいるからひとりでも安心して暮らしていける。これが、子ども世代にとっても、負担のない社会となるのです。